

表 6.8-62 コブナナフシに係る予測結果

種名（分類群）	コブナナフシ（昆虫類）	
保護上重要な種の選定基準	県 RDB：準絶滅危惧	
分布・一般生態等	鹿児島県内では、佐多岬、屋久島、口永良部島、悪石島、奄美大島、与路島、徳之島で記録がある。林内や林縁の低木、防風林沿いの草むらなど地面の低いところに生息している。	
確認状況	飛行場周辺樹林の枯れ枝において複数個体が確認された。	
予測結果	造成等の施工による一時的な影響	本種は夜間に活発に活動することから、夜間工事における工事用照明の使用により生息環境に変化が生じるおそれがある。以上より、夜間照明の使用によりコブナナフシの生息環境が影響を受けると予測する。
	飛行場・土砂採取区域の存在	飛行場（延伸した滑走路等）の存在により、コブナナフシの確認地が直接改変を受ける。また、直接改変後に当該環境が復元されることはない。以上より、コブナナフシの生息環境は影響を受けると予測する。
	航空機の運航	—
	飛行場の施設の供用	施設照明により本種の生息環境が影響を受けのおそれがある。しかし、航空機の離着陸時間帯は現況と変わらず、夜間に航空機が運航する計画はないことから、現況からの変化はなく新たな影響は生じないと予測する。

表 6.8-63 コガタノゲンゴロウに係る予測結果

種名（分類群）	コガタノゲンゴロウ（昆虫類）	
保護上重要な種の選定基準	環境省 RL：絶滅危惧Ⅱ類	
分布・一般生態等	本州ではほぼ絶滅状態のようであるが、九州では比較的個体数が多く、鹿児島県では最も普通に見られる大型のゲンゴロウ類である。平地から低山地の水生物の生える池沼、放棄水田などに生息する。	
確認状況	飛行場周辺において1個体が確認された。本種の主な生息環境は、池沼等の湿地であるが、調査範囲内の湿地において、本種の生息は確認されなかった。	
予測結果	造成等の施工による一時的な影響	本種は走光性を有しており、夜間工事における工事用照明に誘引されるおそれがある。以上より、夜間照明の使用によりコガタノゲンゴロウの生息環境が影響を受けると予測する。
	飛行場・土砂採取区域の存在	飛行場（延伸した滑走路等）の存在により、コガタノゲンゴロウの確認地の樹林は直接改変を受ける。しかし、調査範囲内に分布する湿地において本種は確認されず、調査範囲外から飛来した個体が確認された可能性がある。このため、本種の主要な生息環境は調査範囲外に位置すると考えられ、生息環境への影響は小さいと考えられる。
	航空機の運航	—
	飛行場の施設の供用	施設照明により本種の生息環境が影響を受けのおそれがある。しかし、航空機の離着陸時間帯は現況と変わらず、夜間に航空機が運航する計画はないことから、現況からの変化はなく新たな影響は生じないと予測する。

表 6.8-64 ヤマトアシナガバチに係る予測結果

種名（分類群）	ヤマトアシナガバチ（昆虫類）	
保護上重要な種の選定基準	環境省 RL：情報不足	
分布・一般生態等	本州、四国、九州、琉球に分布する。平地、低山地に生息し、草本の葉裏や樹木の細枝、人家の軒下、壁などに営巣する。	
確認状況	土砂採取区域及びその周辺において数個体が確認された。	
予測結果	造成等の施工による一時的な影響	夜間工事における工事用照明の使用により、本種の生息環境の一部に変化が生じるおそれがある。 しかし、本種は夜間にほとんど活動しないと考えられる種であり、土砂採取区域及びその周辺における工事用照明による影響は限定的であることから、ヤマトアシナガバチの生息に大きな影響を与えるものではないと予測する。
	飛行場・土砂採取区域の存在	土砂採取区域の存在により、ヤマトアシナガバチの確認環境の一部が直接改変を受けるものの、改変区域外の生息環境に変化はない。 以上より、生息環境に変化が生じるものの、その範囲は限定的であり、地域としてヤマトアシナガバチの生息に大きな影響を与えるものではないと予測する。
	航空機の運航	—
	飛行場の施設の供用	—

表 6.8-65 ヤマタニシに係る予測結果

種名（分類群）	ヤマタニシ（陸産貝類）	
保護上重要な種の選定基準	県 RDB：消滅危惧Ⅱ類（地域個体群）	
分布・一般生態等	本州、四国、九州、済州島、甌島列島、種子島、屋久島、草垣群島、口永良部島、口之島に分布する。本種は照葉樹林の林床の落葉層に生息している。分布は広範囲だが、離島個体群は個体数が少ない。	
確認状況	飛行場周辺樹林で多数の個体が確認された。	
予測結果	造成等の施工による一時的な影響	—
	飛行場・土砂採取区域の存在	飛行場（延伸した滑走路等）の存在により生息環境の一部が直接改変を受けるものの、改変区域外の生息環境に変化はない。 以上より、生息環境に変化が生じるものの、その範囲は限定的であり、地域としてヤマタニシの生息に大きな影響を与えるものではないと予測する。
	航空機の運航	—
	飛行場の施設の供用	—

表 6.8-66 ミジンヤマタニシに係る予測結果

種名（分類群）	ミジンヤマタニシ（陸産貝類）	
保護上重要な種の選定基準	県 RDB：準絶滅危惧	
分布・一般生態等	北海道、本州、四国、九州、宇治群島向島、大隅諸島、トカラ列島、奄美群島、沖縄本島、久米島に分布する。本種は、照葉樹林の林床の落葉層に生息している。比較的湿った林内を好むため、森林伐採による乾燥化で生息域が減っている。	
確認状況	飛行場周辺、土砂採取区域及びその周辺樹林の広域で分布が確認された。	
予測結果	造成等の施工による一時的な影響	—
	飛行場・土砂採取区域の存在	飛行場（延伸した滑走路等）及び土砂採取区域の存在により生息環境の一部が直接改変を受けるものの、改変区域外の生息環境に変化はない。以上より、生息環境に変化が生じるものの、その範囲は限定的であり、地域としてミジンヤマタニシの生息に大きな影響を与えるものではないと予測する。
	航空機の運航	—
	飛行場の施設の供用	—

表 6.8-67 ヒメヤマクルマガイに係る予測結果

種名（分類群）	ヒメヤマクルマガイ（陸産貝類）	
保護上重要な種の選定基準	県 RDB：準絶滅危惧	
分布・一般生態等	大隅諸島に分布する。本種は照葉樹林を中心とした林床の落葉層に生息している。生息地には比較的多いが、森林の減少に伴って生息地が減っている。	
確認状況	飛行場周辺、土砂採取区域及びその周辺樹林の倒木下や落葉中で多数確認された。	
予測結果	造成等の施工による一時的な影響	—
	飛行場・土砂採取区域の存在	飛行場（延伸した滑走路等）及び土砂採取区域の存在により生息環境の一部が直接改変を受けるものの、改変区域外の生息環境に変化はない。以上より、生息環境に変化が生じるものの、その範囲は限定的であり、地域としてミジンヤマタニシの生息に大きな影響を与えるものではないと予測する。
	航空機の運航	—
	飛行場の施設の供用	—

表 6.8-68 サツمامシオイに係る予測結果

種名（分類群）	サツمامシオイ（陸産貝類）	
保護上重要な種の選定基準	環境省 RL：準絶滅危惧 県 RDB：準絶滅危惧	
分布・一般生態等	薩摩地方、大隅地方に分布する。本種は照葉樹林を中心とした林床の落葉層に生息している。生息地が自然林に限られており、林の減少に伴い減っている。	
確認状況	飛行場周辺の樹林で4個体が確認された。	
予測結果	造成等の施工による一時的な影響	—
	飛行場・土砂採取区域の存在	飛行場（延伸した滑走路等）の存在により、サツمامシオイの生息地が直接改変を受ける。以上のことから、本種の生息環境は影響を受けると予測する。
	航空機の運航	—
	飛行場の施設の供用	—

表 6.8-69 タネガシマゴマガイに係る予測結果

種名（分類群）	タネガシマゴマガイ（陸産貝類）	
保護上重要な種の選定基準	県 RDB：準絶滅危惧	
分布・一般生態等	大隅諸島に分布する。本種は照葉樹林を中心とした林床の落葉層に生息している。落葉層が発達した森に多いため、森林伐採によって生息地が減っている。	
確認状況	飛行場周辺、土砂採取区域及びその周辺樹林の朽木下や落葉中で多くの個体が確認された。	
予測結果	造成等の施工による一時的な影響	—
	飛行場・土砂採取区域の存在	飛行場（延伸した滑走路等）及び土砂採取区域の存在により生息環境の一部が直接改変を受けるものの、改変区域外の生息環境に変化はない。以上より、生息環境に変化が生じるものの、その範囲は限定的であり、地域としてタネガシマゴマガイの生息に大きな影響を与えるものではないと予測する。
	航空機の運航	—
	飛行場の施設の供用	—

表 6.8-70 タネガシマムシオイに係る予測結果

種名（分類群）	タネガシマムシオイ（陸産貝類）	
保護上重要な種の選定基準	環境省 RL：準絶滅危惧 県 RDB：準絶滅危惧	
分布・一般生態等	大隅諸島に分布する。本種は照葉樹林を中心とした林床の落葉層に生息しており、生息にはある程度湿度の保たれた森林が必要である。	
確認状況	土砂採取区域及びその周辺樹林の、朽木下や落葉中で確認された。	
予測結果	造成等の施工による一時的な影響	—
	飛行場・土砂採取区域の存在	土砂採取区域の存在により生息環境の一部が直接改変を受けるものの、改変区域外の生息環境に変化はない。以上より、生息環境に変化が生じるものの、その範囲は限定的であり、地域としてタネガシマムシオイの生息に大きな影響を与えるものではないと予測する。
	航空機の運航	—
	飛行場の施設の供用	—

表 6.8-71 アズキガイに係る予測結果

種名（分類群）	アズキガイ（陸産貝類）	
保護上重要な種の選定基準	県 RDB：準絶滅危惧	
分布・一般生態等	本州、四国、九州、対馬、甌島列島、大隅諸島、トカラ列島に分布する。本種は照葉樹林の林床の落葉層に生息している。落葉層が発達した森林に多いため、森林伐採によって生息地が減っている。	
確認状況	飛行場周辺、土砂採取区域及びその周辺樹林の倒木下や落葉中で多数確認された。	
予測結果	造成等の施工による一時的な影響	—
	飛行場・土砂採取区域の存在	飛行場（延伸した滑走路等）及び土砂採取区域の存在により生息環境の一部が直接改変を受けるものの、改変区域外の生息環境に変化はない。以上より、生息環境に変化が生じるものの、その範囲は限定的であり、地域としてアズキガイの生息に大きな影響を与えるものではないと予測する。
	航空機の運航	—
	飛行場の施設の供用	—

表 6.8-72 フナトウアズキガイに係る予測結果

種名 (分類群)	フナトウアズキガイ (陸産貝類)	
保護上重要な種の選定基準	県 RDB : 準絶滅危惧	
分布・一般生態等	大隅諸島に分布する。本種は照葉樹林を中心とした林床の落葉層に生息している。落葉層が発達した森に多いため、森林伐採によって生息地が減っている。	
確認状況	飛行場周辺、土砂採取区域及びその周辺の樹林の広い範囲で多数の個体が確認された。	
予測結果	造成等の施工による一時的な影響	—
	飛行場・土砂採取区域の存在	飛行場 (延伸した滑走路等) 及び土砂採取区域の存在により生息環境の一部が直接改変を受けるものの、改変区域外の生息環境に変化はない。以上より、生息環境に変化が生じるものの、その範囲は限定的であり、地域としてフナトウアズキガイの生息に大きな影響を与えるものではないと予測する。
	航空機の運航	—
	飛行場の施設の供用	—

表 6.8-73 ヤクシマゴマガイに係る予測結果

種名 (分類群)	ヤクシマゴマガイ (陸産貝類)	
保護上重要な種の選定基準	環境省 RL : 準絶滅危惧 県 RDB : 準絶滅危惧	
分布・一般生態等	屋久島に分布する。本種は照葉樹林を中心とした林床の落葉層に生息している。生息地には比較的多いが、森林の減少に伴って生息地が減っている。	
確認状況	飛行場周辺、土砂採取区域及びその周辺の樹林の広い範囲で多数の個体が確認された。	
予測結果	造成等の施工による一時的な影響	—
	飛行場・土砂採取区域の存在	飛行場 (延伸した滑走路等) 及び土砂採取区域の存在により生息環境の一部が直接改変を受けるものの、改変区域外の生息環境に変化はない。以上より、生息環境に変化が生じるものの、その範囲は限定的であり、地域としてヤクシマゴマガイの生息に大きな影響を与えるものではないと予測する。
	航空機の運航	—
	飛行場の施設の供用	—

表 6.8-74 チャイロキセルガイモドキに係る予測結果

種名 (分類群)	チャイロキセルガイモドキ (陸産貝類)	
保護上重要な種の選定基準	環境省 RL : 絶滅危惧Ⅱ類 県 RDB : 絶滅危惧Ⅱ類	
分布・一般生態等	佐多岬、大隅諸島に分布する。本種は樹上性で、照葉樹林の樹幹に付着している。生息にはある程度湿度の保たれた森林が必要である。近年、人為的な採集によって減少しており個体数は少ない。	
確認状況	飛行場周辺及び土砂採取区域周辺樹林の樹上で主に確認された。	
予測結果	造成等の施工による一時的な影響	—
	飛行場・土砂採取区域の存在	飛行場 (延伸した滑走路等) 及び土砂採取区域の存在により生息環境の一部が直接改変を受けるものの、改変区域外の生息環境に変化はない。以上より、生息環境に変化が生じるものの、その範囲は限定的であり、地域としてチャイロキセルガイモドキの生息に大きな影響を与えるものではないと予測する。
	航空機の運航	—
	飛行場の施設の供用	—

表 6.8-75 ピントノミギセルに係る予測結果

種名（分類群）	ピントノミギセル（陸産貝類）	
保護上重要な種の選定基準	県 RDB：準絶滅危惧	
分布・一般生態等	徳島県、大分県、大隅諸島、トカラ列島に分布する。本種は朽木を好み、照葉樹林などの林内の倒木下や内部に生息している。生息地が自然林に限られており、林の減少に伴って減っている。	
確認状況	飛行場周辺及び土砂採取区域樹林の落葉中で確認された。	
予測結果	造成等の施工による一時的な影響	—
	飛行場・土砂採取区域の存在	飛行場（延伸した滑走路等）及び土砂採取区域の存在により生息環境の一部が直接改変を受けるものの、改変区域外の生息環境に変化はない。以上より、生息環境に変化が生じるものの、その範囲は限定的であり、地域としてピントノミギセルの生息に大きな影響を与えるものではないと予測する。
	航空機の運航	—
	飛行場の施設の供用	—

表 6.8-76 ハラブトノミギセルに係る予測結果

種名（分類群）	ハラブトノミギセル（陸産貝類）	
保護上重要な種の選定基準	環境省 RL：準絶滅危惧 県 RDB：準絶滅危惧	
分布・一般生態等	大隅諸島に分布する。本種は照葉樹林を中心とした林床の落葉層に生息している。生息地が自然林に限られており、林の減少に伴って減っている。	
確認状況	飛行場周辺樹林、土砂採取区域及びその周辺樹林広い範囲の朽木下や落葉中で多くの個体が確認された。	
予測結果	造成等の施工による一時的な影響	—
	飛行場・土砂採取区域の存在	飛行場（延伸した滑走路等）及び土砂採取区域の存在により生息環境の一部が直接改変を受けるものの、改変区域外の生息環境に変化はない。以上より、生息環境に変化が生じるものの、その範囲は限定的であり、地域としてハラブトノミギセルの生息に大きな影響を与えるものではないと予測する。
	航空機の運航	—
	飛行場の施設の供用	—

表 6.8-77 タネガシマギセルに係る予測結果

種名（分類群）	タネガシマギセル（陸産貝類）	
保護上重要な種の選定基準	環境省 RL：準絶滅危惧 県 RDB：準絶滅危惧	
分布・一般生態等	大隅諸島に分布する。本種は殻高 17.5mm、殻径 4.0mm 程度の小型の貝で、照葉樹林を中心とした林床の落葉層に生息しており、生息にはある程度湿度の保たれた森林が必要である。	
確認状況	土砂採取区域及びその周辺の樹林等の朽木下、落葉中で確認された。	
予測結果	造成等の施工による一時的な影響	—
	飛行場・土砂採取区域の存在	土砂採取区域の存在により生息環境の一部が直接改変を受けるものの、改変区域外の生息環境に変化はない。以上より、生息環境に変化が生じるものの、その範囲は限定的であり、地域としてタネガシマギセルの生息に大きな影響を与えるものではないと予測する。
	航空機の運航	—
	飛行場の施設の供用	—

表 6.8-78 ハラブトギセルに係る予測結果

種名 (分類群)	ハラブトギセル (陸産貝類)	
保護上重要な種の選定基準	県 RDB : 準絶滅危惧	
分布・一般生態等	大隅諸島に分布し、落葉層の中に生息している。林縁部や二次林にも多く、草むらの枯れた草の中にも生息している。森林の減少に伴って、生息地が減っている。	
確認状況	飛行場周辺、土砂採取区域及びその周辺樹林全域の樹幹等で多数の個体が確認された。	
予測結果	造成等の施工による一時的な影響	—
	飛行場・土砂採取区域の存在	飛行場 (延伸した滑走路等) 及び土砂採取区域の存在により生息環境の一部が直接改変を受けるものの、改変区域外の生息環境に変化はない。以上より、生息環境に変化が生じるものの、その範囲は限定的であり、地域としてハラブトギセルの生息に大きな影響を与えるものではないと予測する。
	航空機の運航	—
	飛行場の施設の供用	—

表 6.8-79 ヤコビギセルに係る予測結果

種名 (分類群)	ヤコビギセル (陸産貝類)	
保護上重要な種の選定基準	県 RDB : 準絶滅危惧	
分布・一般生態等	屋久島と種子島に分布する。本種は殻高 15mm、殻径 3.9mm 程度の小型の貝で、照葉樹林を中心とした林床の落葉層に生息しており、生息にはある程度湿度の保たれた森林が必要である。	
確認状況	土砂採取区域周辺の朽木下で確認された。	
予測結果	造成等の施工による一時的な影響	—
	飛行場・土砂採取区域の存在	土砂採取区域の存在により、確認環境が直接改変を受ける。以上より、ヤコビギセルの生息環境は影響を受けると予測する。
	航空機の運航	—
	飛行場の施設の供用	—

表 6.8-80 トカラコギセルに係る予測結果

種名 (分類群)	トカラコギセル (陸産貝類)	
保護上重要な種の選定基準	環境省 RL : 絶滅危惧 I 類 県 RDB : 準絶滅危惧	
分布・一般生態等	本州、四国、宮崎県、屋久島、三島村、奄美大島、沖永良部島に分布する。本種は樹上性で照葉樹林の樹幹に付着している。本種の生息には、ある程度湿度の保たれた森林が必要である。人目に付きやすく、人為的な採集によって数が減っている。	
確認状況	飛行場周辺の樹林において確認された。	
予測結果	造成等の施工による一時的な影響	—
	飛行場・土砂採取区域の存在	トカラコギセルの確認環境は直接改変を受けず、生息環境に変化はない。以上より、本種の生息環境に影響はないと予測する。
	航空機の運航	—
	飛行場の施設の供用	—

表 6.8-81 ヤクシマダワラガイに係る予測結果

種名（分類群）	ヤクシマダワラガイ（陸産貝類）	
保護上重要な種の選定基準	県 RDB：準絶滅危惧	
分布・一般生態等	鹿児島県の大隅諸島に分布する。本種は照葉樹林を中心とした林床の落葉層に生息している。生息地が自然林に限られており、林の減少に伴い減っている。	
確認状況	飛行場周辺の樹林で1個体が確認された。	
予測結果	造成等の施工による一時的な影響	—
	飛行場・土砂採取区域の存在	飛行場（延伸した滑走路等）の存在により、ヤクシマダワラガイの確認環境が直接改変を受ける。 以上より、本種の生息環境が影響を受けると予測する。
	航空機の運航	—
	飛行場の施設の供用	—

表 6.8-82 ミジンナタネガイに係る予測結果

種名（分類群）	ミジンナタネガイ（陸産貝類）	
保護上重要な種の選定基準	県 RDB：準絶滅危惧	
分布・一般生態等	本州、九州に分布し、山麓のやや湿った落葉層に生息している。生息地が自然林に限られており、林の減少に伴って減っている。	
確認状況	飛行場周辺の樹林において確認された。	
予測結果	造成等の施工による一時的な影響	—
	飛行場・土砂採取区域の存在	飛行場（延伸した滑走路等）の存在により、ミジンナタネガイの確認環境が直接改変を受ける。 以上より、本種の生息環境は影響を受けると予測する。
	航空機の運航	—
	飛行場の施設の供用	—

表 6.8-83 カサキビに係る予測結果

種名（分類群）	カサキビ（陸産貝類）	
保護上重要な種の選定基準	県 RDB：準絶滅危惧	
分布・一般生態等	本州、四国、九州に分布する。本種は殻高 3.5mm、殻径 2.8mm 程度の微小な貝で、照葉樹林を中心とした林床の落葉層に生息している。	
確認状況	土砂採取区域周辺の樹林1箇所の朽木下で1個体が確認された。	
予測結果	造成等の施工による一時的な影響	—
	飛行場・土砂採取区域の存在	カサキビの確認環境は直接改変を受けず、生息環境に変化はない。 以上より、本種の生息環境に影響はないと予測する。
	航空機の運航	—
	飛行場の施設の供用	—

表 6.8-84 ヒメカサキビに係る予測結果

種名 (分類群)	ヒメカサキビ (陸産貝類)	
保護上重要な種の選定基準	環境省 RL：準絶滅危惧 県 RDB：準絶滅危惧	
分布・一般生態等	本州、三宅島、八丈島、四国、九州、屋久島、黒島、口之島、中之島、悪石島、奄美大島に分布する。本種は照葉樹林を中心とした林床の落葉層に生息している。生息地が自然林に限られており、林の減少に伴って減っている。	
確認状況	飛行場周辺の樹林、土砂採取区域及びその周辺樹林の朽木や落葉中で確認された。	
予測結果	造成等の施工による一時的な影響	—
	飛行場・土砂採取区域の存在	飛行場 (延伸した滑走路等) 及び土砂採取区域の存在により生息環境の一部が直接改変を受けるものの、改変区域外の生息環境に変化はない。以上より、生息環境に変化が生じるものの、その範囲は限定的であり、地域としてヒメカサキビの生息に大きな影響を与えるものではないと予測する。
	航空機の運航	—
	飛行場の施設の供用	—

表 6.8-85 ヒメベッコウに係る予測結果

種名 (分類群)	ヒメベッコウ (陸産貝類)	
保護上重要な種の選定基準	県 RDB：準絶滅危惧	
分布・一般生態等	本州、四国、九州、五島 (福江島)、屋久島、伊豆諸島に分布し、照葉樹林を中心とした林内の林床の落葉層に生息している。	
確認状況	飛行場周辺樹林、土砂採取区域及びその周辺樹林の倒木下や落葉中で確認された。	
予測結果	造成等の施工による一時的な影響	—
	飛行場・土砂採取区域の存在	飛行場 (延伸した滑走路等) 及び土砂採取区域の存在により生息環境の一部が直接改変を受けるものの、改変区域外の生息環境に変化はない。以上より、生息環境に変化が生じるものの、その範囲は限定的であり、地域としてヒメベッコウの生息に大きな影響を与えるものではないと予測する。
	航空機の運航	—
	飛行場の施設の供用	—

表 6.8-86 ヤクシマヒメベッコウに係る予測結果

種名 (分類群)	ヤクシマヒメベッコウ (陸産貝類)	
保護上重要な種の選定基準	県 RDB：準絶滅危惧	
分布・一般生態等	本州、四国、九州、屋久島に分布する。本種は照葉樹林を中心とした林床の落葉層に生息している。生息地が自然林に限られており、林の減少に伴って減っている。	
確認状況	飛行場周辺樹林、土砂採取区域及びその周辺樹林全域の倒木下や落葉中で多くの個体が確認された。	
予測結果	造成等の施工による一時的な影響	—
	飛行場・土砂採取区域の存在	飛行場 (延伸した滑走路等) 及び土砂採取区域の存在により生息環境の一部が直接改変を受けるものの、改変区域外の生息環境に変化はない。以上より、生息環境に変化が生じるものの、その範囲は限定的であり、地域としてヤクシマヒメベッコウの生息に大きな影響を与えるものではないと予測する。
	航空機の運航	—
	飛行場の施設の供用	—

表 6.8-87 コシダカシタラガイに係る予測結果

種名（分類群）	コシダカシタラガイ（陸産貝類）	
保護上重要な種の選定基準	県 RDB：準絶滅危惧	
分布・一般生態等	本州、四国、九州、伊豆諸島、壱岐、屋久島、宝島に分布し、照葉樹林を中心とした林床の落葉層に生息している。分布は広範囲だが、生息地が限られ、生息個体数は非常に少ない。	
確認状況	飛行場周辺、土砂採取区域及びその周辺樹林の倒木下や朽木下等で確認された。	
予測結果	造成等の施工による一時的な影響	—
	飛行場・土砂採取区域の存在	飛行場（延伸した滑走路等）及び土砂採取区域の存在により生息環境の一部が直接改変を受けるものの、改変区域外の生息環境に変化はない。以上より、生息環境に変化が生じるものの、その範囲は限定的であり、地域としてコシダカシタラガイの生息に大きな影響を与えるものではないと予測する。
	航空機の運航	—
	飛行場の施設の供用	—

表 6.8-88 ウメムラシタラガイに係る予測結果

種名（分類群）	ウメムラシタラガイ（陸産貝類）	
保護上重要な種の選定基準	環境省 RL：準絶滅危惧 県 RDB：準絶滅危惧	
分布・一般生態等	本州、四国、九州、宇治群島向島、屋久島に分布し、照葉樹林を中心とした林床の落葉層に生息している。比較的良好な林にしか生息しないため、森林の環境指標生物として重要である。	
確認状況	飛行場周辺の樹林 1 箇所 で 1 個体が確認された。	
予測結果	造成等の施工による一時的な影響	—
	飛行場・土砂採取区域の存在	飛行場（延伸した滑走路等）の存在により、ウメムラシタラガイの確認環境が直接改変を受ける。以上より、本種の生息環境は影響を受けると予測する。
	航空機の運航	—
	飛行場の施設の供用	—

表 6.8-89 オオクラヒメベッコウに係る予測結果

種名（分類群）	オオクラヒメベッコウ（陸産貝類）	
保護上重要な種の選定基準	県 RDB：準絶滅危惧	
分布・一般生態等	本州、四国、対馬、九州南部、大隅諸島に分布し、照葉樹林を中心とした林床の落葉層に生息している。生息地が自然林に限られており、林の減少に伴って減っている。	
確認状況	飛行場周辺樹林、土砂採取区域及びその周辺樹林の倒木下や落葉下で確認された。	
予測結果	造成等の施工による一時的な影響	—
	飛行場・土砂採取区域の存在	飛行場（延伸した滑走路等）及び土砂採取区域の存在により生息環境の一部が直接改変を受けるものの、改変区域外の生息環境に変化はない。以上より、生息環境に変化が生じるものの、その範囲は限定的であり、地域としてオオクラヒメベッコウの生息に大きな影響を与えるものではないと予測する。
	航空機の運航	—
	飛行場の施設の供用	—

表 6.8-90 タネガシマヒメベッコウに係る予測結果

種名 (分類群)	タネガシマヒメベッコウ (陸産貝類)	
保護上重要な種の選定基準	県 RDB : 準絶滅危惧	
分布・一般生態等	九州、大隅諸島、奄美諸島、沖縄に分布し、照葉樹林を中心とした林床の落葉層に生息している。生息地が自然林に限られており、林の減少に伴って減っている。	
確認状況	飛行場周辺樹林、土砂採取区域及びその周辺樹林の倒木下や落葉中で確認された。	
予測結果	造成等の施工による一時的な影響	—
	飛行場・土砂採取区域の存在	飛行場 (延伸した滑走路等) 及び土砂採取区域の存在により生息環境の一部が直接改変を受けるものの、改変区域外の生息環境に変化はない。以上より、生息環境に変化が生じるものの、その範囲は限定的であり、地域としてタネガシマヒメベッコウの生息に大きな影響を与えるものではないと予測する。
	航空機の運航	—
	飛行場の施設の供用	—

表 6.8-91 コシダカヒメベッコウに係る予測結果

種名 (分類群)	コシダカヒメベッコウ (陸産貝類)	
保護上重要な種の選定基準	環境省 RL : 準絶滅危惧 県 RDB : 準絶滅危惧	
分布・一般生態等	屋久島、種子島に分布する。本種は殻高 3.0mm、殻径 3.5mm 程度の微小な貝で、照葉樹林を中心とした林床の落葉層に生息しており、生息にはある程度湿度の保たれた森林が必要である。	
確認状況	土砂採取区域周辺樹林の落葉中や朽木下で確認された。	
予測結果	造成等の施工による一時的な影響	—
	飛行場・土砂採取区域の存在	土砂採取区域の存在により生息環境の一部が直接改変を受けるものの、改変区域外の生息環境に変化はない。以上より、生息環境に変化が生じるものの、その範囲は限定的であり、地域としてコシダカヒメベッコウの生息に大きな影響を与えるものではないと予測する。
	航空機の運航	—
	飛行場の施設の供用	—

表 6.8-92 ヤクジマシタラガイに係る予測結果

種名（分類群）	ヤクジマシタラガイ（陸産貝類）	
保護上重要な種の選定基準	県 RDB：準絶滅危惧	
分布・一般生態等	甌島、佐多岬、屋久島に分布し、照葉樹林を中心とした林床の落葉層に生息している。生息地が自然林に限られており、林の減少に伴って減っている。	
確認状況	飛行場周辺樹林、土砂採取区域周辺樹林の樹上で確認された。	
予測結果	造成等の施工による一時的な影響	—
	飛行場・土砂採取区域の存在	飛行場（延伸した滑走路等）及び土砂採取区域の存在により生息環境の一部が直接改変を受けるものの、改変区域外の生息環境に変化はない。以上より、生息環境に変化が生じるものの、その範囲は限定的であり、地域としてヤクジマシタラガイの生息に大きな影響を与えるものではないと予測する。
	航空機の運航	—
	飛行場の施設の供用	—

表 6.8-93 ソコスジカサキビに係る予測結果

種名（分類群）	ソコスジカサキビ（陸産貝類）	
保護上重要な種の選定基準	環境省 RL：情報不足 県 RDB：準絶滅危惧	
分布・一般生態等	薩摩地方、屋久島に分布し、照葉樹林を中心とした林床の落葉層に生息している。生息地が自然林に限られており、林の減少に伴って減っている。	
確認状況	飛行場周辺の樹林で2個体が確認された。	
予測結果	造成等の施工による一時的な影響	—
	飛行場・土砂採取区域の存在	飛行場（延伸した滑走路等）の存在により、ソコスジカサキビの生息地が直接改変を受ける。以上より、本種の生息環境は影響を受けると予測する。
	航空機の運航	—
	飛行場の施設の供用	—

表 6.8-94 ヤクジマベッコウに係る予測結果

種名（分類群）	ヤクジマベッコウ（陸産貝類）	
保護上重要な種の選定基準	環境省 RL：情報不足 県 RDB：準絶滅危惧	
分布・一般生態等	屋久島、口永良部島に分布し、照葉樹林を中心とした林床の落葉層に生息している。生息地が自然林に限られており、林の減少に伴い減っている。	
確認状況	飛行場周辺及び土砂採取区域周辺樹林の落葉中や朽木下で確認された。	
予測結果	造成等の施工による一時的な影響	—
	飛行場・土砂採取区域の存在	飛行場（延伸した滑走路等）及び土砂採取区域の存在により生息環境の一部が直接改変を受けるものの、改変区域外の生息環境に変化はない。以上より、生息環境に変化が生じるものの、その範囲は限定的であり、地域としてヤクジマベッコウの生息に大きな影響を与えるものではないと予測する。
	航空機の運航	—
	飛行場の施設の供用	—

表 6.8-95 タカカサマイマイに係る予測結果

種名 (分類群)	タカカサマイマイ (陸産貝類)	
保護上重要な種の選定基準	環境省 RL: 準絶滅危惧 県 RDB: 準絶滅危惧	
分布・一般生態等	薩摩半島、大隅諸島、トカラ列島、奄美諸島に分布し、照葉樹林を中心とした林床の落葉層に生息している。生息地には比較的多いが、森林の減少に伴って生息地が減っている。	
確認状況	飛行場周辺及び土砂採取区域全域の樹幹や朽木下等で多くの個体が確認された。	
予測結果	造成等の施工による一時的な影響	—
	飛行場・土砂採取区域の存在	土砂採取区域の存在により生息環境の一部が直接改変を受けるものの、改変区域外の生息環境に変化はない。 以上より、生息環境に変化が生じるものの、その範囲は限定的であり、地域としてタカカサマイマイの生息に大きな影響を与えるものではないと予測する。
	航空機の運航	—
	飛行場の施設の供用	—

表 6.8-96 クチジロビロウドマイマイに係る予測結果

種名 (分類群)	クチジロビロウドマイマイ (陸産貝類)	
保護上重要な種の選定基準	環境省 RL: 絶滅危惧Ⅱ類 県 RDB: 絶滅危惧Ⅱ類	
分布・一般生態等	屋久島の固有種である。本種は落ち葉の下や倒木下など、かなり湿度の高い環境に生息しているが、個体数は少ない。湿度の保たれた森林と、落ち葉が溜まりやすく湿度が保たれ易い岩場の隙間や倒木などの環境が必要である。	
確認状況	飛行場周辺、土砂採取区域周辺樹林の大木下等で確認された。	
予測結果	造成等の施工による一時的な影響	—
	飛行場・土砂採取区域の存在	飛行場 (延伸した滑走路等) 及び土砂採取区域の存在により生息環境の一部が直接改変を受けるものの、改変区域外の生息環境に変化はない。 以上より、生息環境に変化が生じるものの、その範囲は限定的であり、地域としてクチジロビロウドマイマイの生息に大きな影響を与えるものではないと予測する。
	航空機の運航	—
	飛行場の施設の供用	—

表 6.8-97 ヘソカドケマイマイに係る予測結果

種名（分類群）	ヘソカドケマイマイ（陸産貝類）	
保護上重要な種の選定基準	環境省 RL：準絶滅危惧 県 RDB：準絶滅危惧	
分布・一般生態等	薩摩半島南部、大隅諸島、トカラ列島に分布する。本種は樹上性で、照葉樹林の木々や草に付着している。生息地が自然林に限られており、林の減少に伴って減っている。	
確認状況	確認個体は少ないものの、飛行場周辺樹林全域で確認された。	
予測結果	造成等の施工による一時的な影響	—
	飛行場・土砂採取区域の存在	飛行場（延伸した滑走路等）の存在により生息環境の一部が直接改変を受けるものの、改変区域外の生息環境に変化はない。 以上より、生息環境に変化が生じるものの、その範囲は限定的であり、地域としてヘソカドケマイマイの生息に大きな影響を与えるものではないと予測する。
	航空機の運航	—
	飛行場の施設の供用	—

表 6.8-98 ツバキカドケマイマイに係る予測結果

種名（分類群）	ツバキカドケマイマイ（陸産貝類）	
保護上重要な種の選定基準	環境省 RL：絶滅危惧Ⅱ類 県 RDB：準絶滅危惧	
分布・一般生態等	伊豆諸島、薩摩半島・大隅半島南部、大隅諸島、トカラ列島に分布する。本種は樹上性で樹幹や葉上に生息しており、湿度の保たれた森林が必要である。	
確認状況	飛行場周辺樹林、土砂採取区域及びその周辺樹林の樹上で多くの個体が確認された。	
予測結果	造成等の施工による一時的な影響	—
	飛行場・土砂採取区域の存在	飛行場（延伸した滑走路等）及び土砂採取区域の存在により生息環境の一部が直接改変を受けるものの、改変区域外の生息環境に変化はない。 以上より、生息環境に変化が生じるものの、その範囲は限定的であり、地域としてツバキカドケマイマイの生息に大きな影響を与えるものではないと予測する。
	航空機の運航	—
	飛行場の施設の供用	—

表 6.8-99 ヤクシママイマイに係る予測結果

種名（分類群）	ヤクシママイマイ（陸産貝類）	
保護上重要な種の選定基準	環境省 RL：絶滅危惧Ⅱ類 県 RDB：絶滅危惧Ⅱ類	
分布・一般生態等	屋久島、種子島に分布する。本種は落ち葉の下や樹幹に生息しており、生息にはある程度湿度の保たれた森林が必要である。	
確認状況	飛行場周辺、土砂採取区域及びその周辺樹林の樹上や落葉上で確認された。	
予測結果	造成等の施工による一時的な影響	—
	飛行場・土砂採取区域の存在	飛行場（延伸した滑走路等）及び土砂採取区域の存在により生息環境の一部が直接改変を受けるものの、改変区域外の生息環境に変化はない。 以上より、生息環境に変化が生じるものの、その範囲は限定的であり、地域としてヤクシママイマイの生息に大きな影響を与えるものではないと予測する。
	航空機の運航	—
	飛行場の施設の供用	—

表 6.8-100 チャイロマイマイに係る予測結果

種名（分類群）	チャイロマイマイ（陸産貝類）	
保護上重要な種の選定基準	県 RDB：準絶滅危惧	
分布・一般生態等	佐多岬、大隅諸島、トカラ列島に分布し、照葉樹林を中心とした林床の落葉層に生息している。生息地が自然林に限られており、林の減少に伴って減っている。	
確認状況	飛行場周辺の樹林において多くの個体が確認された。	
予測結果	造成等の施工による一時的な影響	—
	飛行場・土砂採取区域の存在	飛行場（延伸した滑走路等）の存在により生息環境の一部が直接改変を受けるものの、改変区域外の生息環境に変化はない。 以上より、生息環境に変化が生じるものの、その範囲は限定的であり、地域としてチャイロマイマイの生息に大きな影響を与えるものではないと予測する。
	航空機の運航	—
	飛行場の施設の供用	—

表 6.8-101 オカヤドカリ類に係る予測結果

種名（分類群）	オカヤドカリ類（オカヤドカリ類）	
保護上重要な種の選定基準	文化財保護法：天然記念物指定種	
分布・一般生態等	文化財保護法では、屋久島に分布する種でムラサキオカヤドカリ、ナキオカヤドカリ、オカヤドカリが天然記念物の指定を受けている。現地調査で確認された個体は形態などからこれらの中の1種であると考えられる。夜行性で、昼間は林や海岸近くの草むら、石の下に潜んでいて、夜になると砂浜や水辺に出てきて餌をあさる。雑食性で、野菜類や魚介類を好んで食べる。	
確認状況	飛行場周辺で多くの個体が確認された。確認箇所は、海岸林が連続する場所であった。	
予測結果	造成等の施工による一時的な影響	オカヤドカリ類は陸域動物であるものの、生活史の一部（幼生の時期等）を海域で過ごすことから、造成等の施工による一時的な影響についても予測を行った。 工事中に発生する濁水の流入により、河口付近の上層においてのみ浮遊物質量がわずかに変化する（「6.5 水質の予測結果」）。 なお、その変化は極めて小さいことから、オカヤドカリ類の生息環境に影響はないと予測する。
	飛行場・土砂採取区域の存在	オカヤドカリ類の生息地は直接改変を受けず、生息環境に変化はない。 以上より、本種の生息環境に影響はないと予測する。
	航空機の運航	—
	飛行場の施設の供用	オカヤドカリ類は陸域動物であるものの、生活史の一部（幼生の時期等）を海域で過ごすことから、飛行場の施設の供用の影響についても予測を行った。 飛行場の施設の供用に伴う汚水排水は、合併処理浄化槽にて適正に処理した後に放流されるため、周辺環境への影響はほとんどない（「6.5 水質の予測結果」）。 以上より、オカヤドカリ類の生息環境に影響はないと予測する。

表 6.8-102 ニホンウナギに係る予測結果

種名 (分類群)	ニホンウナギ (魚類)	
保護上重要な種の選定基準	環境省 RL: 絶滅危惧 I B 類 県 RDB: 絶滅危惧 I 類	
分布・一般生態等	成魚の全長は 1m 程度。鹿児島県内では島嶼を含む各地に分布している。降河回遊魚で、河川で 4~15 年過ごし、繁殖のために海に下る。河口付近の沿岸域から上流まで広く生息するが、流れの緩やかな中流から河口、内湾にかけて多い。	
確認状況	河川で生息が確認された。	
予測結果	造成等の施工による一時的な影響	工事中に発生する濁水が河川へ流入することにより生息環境が一時的に変化するものの、各河川の浮遊物質量は、現況の降雨時の濃度を大幅に超過するものではない (「6.5 水質の予測結果」)。このため、本種の生息環境が一時的に変化するものの、その変化は極めて小さく、本種の生息に大きな影響を与えるものではないと予測する。
	飛行場・土砂採取区域の存在	ニホンウナギの生息地は直接改変を受けず、生息環境に変化はない。以上より、本種の生息環境に影響はないと予測する。
	航空機の運航	—
	飛行場の施設の供用	飛行場の施設の供用に伴う污水排水は、合併処理浄化槽にて適正に処理した後放流されるため、現況から大きな変化はない (「6.5 水質の予測結果」)。このため、本種の生息環境に影響はないと予測する。

表 6.8-103 オオウナギに係る予測結果

種名 (分類群)	オオウナギ (魚類)	
保護上重要な種の選定基準	水産庁 DB: 減少種	
分布・一般生態等	成魚の全長は 1m 程度。鹿児島県内では島嶼を含む各地に分布している。降河回遊魚で、河川で 4~15 年過ごし、繁殖のために海に下る。河口付近の沿岸域から上流まで広く生息するが、流れの緩やかな中流から河口、内湾にかけて多い。	
確認状況	調査では、河川で生息が確認された。	
予測結果	造成等の施工による一時的な影響	工事中に発生する濁水が河川へ流入することにより生息環境が一時的に変化するものの、各河川の浮遊物質量は、現況の降雨時の濃度を大幅に超過するものではない (「6.5 水質の予測結果」)。このため、本種の生息環境が一時的に変化するものの、その変化は極めて小さく、本種の生息に大きな影響を与えるものではないと予測する。
	飛行場・土砂採取区域の存在	土砂採取区域の存在により生息環境の一部が直接改変を受けるものの、改変区域外の生息環境に変化はない。また、飛行場の存在により移動経路の一部 (滑走路下を流下する暗渠) が改変を受けるものの、改変後の暗渠は現状と同程度の形状 (勾配、落差等) を維持させる計画であることから、変化は小さい。以上より、生息環境に変化が生じるものの、その区域及び期間は限定的であり、地域としてオオウナギの生息に大きな影響を与えるものではないと予測する。
	航空機の運航	—
	飛行場の施設の供用	飛行場の施設の供用に伴う污水排水は、合併処理浄化槽にて適正に処理した後放流されるため、現況から大きな変化はない (「6.5 水質の予測結果」)。このため、本種の生息環境に影響はないと予測する。

表 6.8-104 アカボウズハゼに係る予測結果

種名 (分類群)	アカボウズハゼ (魚類)	
保護上重要な種の選定基準	環境省 RL: 絶滅危惧 I A 類 県 RDB: 絶滅危惧 I 類	
分布・一般生態等	成魚の全長は 50 mm 程度。鹿児島県内では種子島、屋久島、奄美大島から知られている。樹林に囲まれた水の清澄な河川の渓流域に生息する。流れの緩やかな淵にて、転石上に定位している。	
確認状況	河川で生息が確認された。いずれも全長 30 mm 程であり、未成魚と考えられる。	
予測結果	造成等の施工による一時的な影響	工事中に発生する濁水が河川へ流入することにより生息環境が一時的に変化するものの、各河川の浮遊物質量は、現況の降雨時の濃度を大幅に超過するものではない (「6.5 水質の予測結果」)。このため、本種の生息環境が一時的に変化するものの、その変化は極めて小さく、本種の生息に大きな影響を与えるものではないと予測する。
	飛行場・土砂採取区域の存在	アカボウズハゼの生息地は直接改変を受けず、生息環境に変化はない。以上より、本種の生息環境に影響はないと予測する。
	航空機の運航	—
	飛行場の施設の供用	飛行場の施設の供用に伴う汚水排水は、合併処理浄化槽にて適正に処理した後放流されるため、現況から大きな変化はない (「6.5 水質の予測結果」)。このため、本種の生息環境に影響はないと予測する。

表 6.8-105 ルリボウズハゼに係る予測結果

種名 (分類群)	ルリボウズハゼ (魚類)	
保護上重要な種の選定基準	環境省 RL: 絶滅危惧 II 類 県 RDB: 絶滅危惧 II 類	
分布・一般生態等	成魚の全長は 120mm 程度。鹿児島県内では種子島、屋久島、口永良部島、奄美大島に分布している。河川生活期は、水の清澄な河川の中流域～上流域に生息する。海洋生活期については不明。	
確認状況	河川で確認された。	
予測結果	造成等の施工による一時的な影響	工事中に発生する濁水が河川へ流入することにより生息環境が一時的に変化するものの、各河川の浮遊物質量は、現況の降雨時の濃度を大幅に超過するものではない (「6.5 水質の予測結果」)。このため、本種の生息環境が一時的に変化するものの、その変化は極めて小さく、本種の生息に大きな影響を与えるものではないと予測する。
	飛行場・土砂採取区域の存在	ルリボウズハゼの生息地は直接改変を受けず、生息環境に変化はない。以上より、本種の生息環境に影響はないと予測する。
	航空機の運航	—
	飛行場の施設の供用	飛行場の施設の供用に伴う汚水排水は、合併処理浄化槽にて適正に処理した後放流されるため、現況から大きな変化はない (「6.5 水質の予測結果」)。このため、本種の生息環境に影響はないと予測する。